

## 富山県ものづくり産業未来戦略検討会議でいただいた主なご意見

## 総論

- ・リスクヘッジをしながら、ものづくり県としての成長性を磨いていく必要がある。  
(第1回中澤委員)
- ・マクロトレンドの視点から、議論を活性化する必要がある。(第1回藤井委員)
- ・GXやDXは避けて通れないので、積極的に戦略に入れるべきである。  
(第1回加藤副座長、唐山委員、杉森オブザーバー)

## 1. 企業間・産学官連携(オープンイノベーション)の推進による新たな付加価値の創出

## 【産学官連携による成長産業分野への技術開発の支援】

- ・業界間で横のつながりを持つことで、技術的な課題(困りごと)を共有し、相互に助け合うことができ、新たに生まれるものもある。(第1回金森座長、能作委員、中井委員)
- ・イノベーションそのものが困難で、それをオープンにすることにもハードルがある中でオープンイノベーションについては、慎重に進める必要がある。(第1回唐山委員)
- ・県内産業の未来を長期的に考え、オープンイノベーションを推進すべきである。  
(第1回鈴木委員)
- ・いつまでに何をどうするのか、どこに一番力を入れたいのか、どこだけは達成したいのかがないと産学官連携は難しい。(第1回高津オブザーバー)
- ・国際規制への対応に、ともに取組む機関(大学等)があれば、各企業は早く対策できる。  
(第1回中西委員)
- ・新しい価値を創造するために、モノだけではなく、コト(サービス)の開発も課題。  
(第1回能作委員、第2回西田委員代理 水島氏)
- ・産学官連携や企業間連携でマッチングした後、フォローする仕組みも必要(第2回多賀委員)
- ・空飛ぶ車や量子コンピュータなど非常に技術の高い製品が増えている中、そこに県内企業がどのように参画できるか、スキームを作っていかなければいけない。(第2回桐山オブザーバー)
- ・薬総研で働きたい勉強したいという外国人の受入体制の整備に注力してほしい。  
(第1回高津オブザーバー)

## 【ものづくり産業における富山モデルの創出】

- ・企業単独でのリサイクルは難しいので、産業別やエリアを跨いだりサイクルを考える必要がある。(第1回中西委員)
- ・単一企業でサーキュラーエコノミー型事業の展開をするより、多分野にわたる企業あるいは産学官の協力でこの事業を創造するための具体的な仕組みを検討すべき。(第2回加藤副座長)
- ・富山の視点を持ちながらも、外の知見も持っているような、富山型のクリエイティブ系のプロデューサー型人材をどのように育てていくかが重要である。(第2回藤井委員)
- ・日本に入ってきた資源をどのように日本の中できちんと回していくかという視点で、サーキュラーエコノミーを検討するとよい。(第2回鈴木委員)

【「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムや、とやまアルミコンソーシアム、とやまヘルスケアコンソーシアムのオープンイノベーションによる研究開発プロジェクトの深化】

- ・富山県の医薬品産業が伸びていくためには、高付加価値に向けた取組みが必要。(第2回中井委員代理 高田氏)
- ・「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造コンソーシアムにおいて、大学発のシーズを活用した新しい創薬をしていくなど成功事例をいち早く出すことが重要である。(第2回中井委員代理 高田氏)
- ・現在、バイオ関連の人材が求められているので、さらに新しいものに取り組みめるように、県立大学の医薬品工学科におけるバイオ人材の育成・確保の内容を加えてほしい。(第2回中井委員代理 高田氏)
- ・自社の商品がどれだけCO2を発生しているのかデータを把握していくこと、アルミのリサイクルを進めていくことが重要である。(第1回荒井委員代理 村中氏)
- ・SDGs やカーボンニュートラルを一つのチャンスと捉えている。水平リサイクルに取り組み、循環型の社会を作っていきたい。(第1回荒井委員)

## 2. ものづくりを担う人材の育成・確保

【ものづくり産業の経営者・従業員のウェルビーイングの向上】

- ・経済成長のみならず、働きがいのある仕事、働きやすい環境づくりも必要である。(第1回東出委員)
- ・経営者が自ら勉強して、意識を変える必要がある。(第2回金森座長)
- ・経営者は、自らの意識を変えたり、ビジョンを明確にしたりすることが重要であるが、特に重要なのは、経営者のパーソナリティである。(第2回加藤副座長)

【デジタル・バイオ等の先端技術を活用できる高度技術人材の育成・確保】

- ・DX推進に向けた技術開発が進んでいることを十分に理解して、医薬品産業の振興に協力できるような技術開発を行い、今までと違った人材育成を考える必要がある。(第2回高津オブザーバー)

【女性活躍の推進】

- ・女性の登用も含めて活躍の場を提供し、そのための支援を強化していくとよい。(第2回加藤副座長)
- ・県民意識の醸成が課題。(第2回中澤委員代理 木村氏)
- ・女性活躍のための各年代別の取組みがはっきりするとよい。(第2回中西委員代理 安田氏)
- ・女性活躍を全面に出すのはよいが、その考え方に基づく意識をどのように変えていくかが重要。(第2回金森座長)

【外国人材の活用や多様な人材の確保・活躍の推進】

- ・富山県内で就職したいという希望を持っている外国人学生もおり、外国人留学生を対象とするインターンシップなどがあればよい(第2回張委員)
- ・多様な人材を受け入れて最適化していくためには、企業にかかる負荷に対するフォローの視点が必要(第2回鈴木委員)。

【就職期の若者等へのアプローチの強化】

- ・学生に企業の情報をしっかり届けることが重要であり、特に若い社員の姿を情報発信してほしい。(第1回・第2回鈴木委員)

【中高生及び大学生のものづくり職場体験等の機会充実】

- ・中高生だけではなく、中高大と継続して進めていくことが非常に重要である。(第2回加藤副座長)

### 3. 産業集積を活かした成長産業の企業誘致、アジア等への海外展開等への支援

#### 【販路開拓、ものづくり技術の発信】

- ・海外に対しての売り込みが弱いと感じる。伝え方が重要で、これは富山県民全員のシビックプライドをあげることでおしとやかさがなくなることにより、(産業が)元気になっていくのではないか。(第2回 能作委員)
- ・富山県の遠慮深いマインドを少しずつ変えていく必要がある。(第2回金森座長)
- ・繊維産業でもモノを作るのは皆さん上手であるが、それをどう売っていくのかについては、まだまだ弱いと感じている。(第2回西田委員代理水島氏)

### 4. 中小・小規模企業に対する総合的支援

#### 【中小・小規模企業のDX、GX支援】

- ・環境負荷にどう取り組んでいるか、見える化、低減が求められているので、環境負荷に対応するためのGX、DXという切り口で記載したほうがよい。(第2回杉森オブザーバー)
- ・GX・DXの推進にあたって、小規模でも実施できる、短期間で簡単にトライできるという事例を発信し、まずはできることから一歩踏み出せるようにするとよい。(第2回鈴木委員)
- ・DXの内製化が進んでおり、DX導入後の支援も必要。生成AIをうまく機能させるまでには時間とお金と人がかかる。(第1回・第2回多賀委員)

### 5. その他

- ・企業の中で新しいことに取り組む時間が十分に取れないと考えられるため、この戦略の見直し案が出たとき、そもそも時間や労力をどうやって確保していくか、今後具体的に議論をしていくべきである。(第2回唐山委員)
- ・自社に必要な支援策が企業に伝わっていないことがあるため、情報発信の手法を見直すべき。(第1回金森座長)
- ・いかに企業に戦略を周知していくのか検討してほしい。(第2回中澤委員代理 木村氏)
- ・社会インフラのものづくりについても視野に入れるとよい。(第2回唐山委員)
- ・本戦略の改定に併せて、知的財産の戦略的な活用を推進すべきである。(第1回金森座長、高林オブザーバー代理 林氏)
- ・目標値を設定するとバックキャストでこの時期までに何をやらなければならないという議論ができる。(第2回唐山委員)
- ・抽象的な中での目標値設定は難しい気もするが、数値目標に対する達成度は、振り返りにあたっての一つの手法になる。施策に対する目標値、例えば達成時期というような管理項目など、何かしら検討するとよい。(第2回金森座長)